

障害者サービス用資料の収集と製作

2010.12.7 あずま図書館 山内薫

1. 障害者サービス用資料に関する基本的な考え方

<前提>

利用者に提供する障害者サービス用資料で、購入できるものはごく僅かしかなく、自館で製作するには多くの手間と時間がかかるため、まず、既にどこかの図書館で製作されているか、製作中であるかを調べる。(国立国会図書館「点字図書録音図書全国総合目録」、サピエ図書館)しかし、どこの図書館でも製作されていなければ自館で製作せざるをえない。(対面朗読や対面手話による提供も当然考慮されなければならない)

障害者サービスでは相互貸借が不可欠だが、録音図書・点字図書以外は全国的な目録がないので、検索には困難を伴う。また、他館が作成した資料では音訳や点訳・拡大などの方法・処理が利用者の要望に添わない場合もあるということを念頭に置く必要がある。

A, 図書館や資料利用に障害のある人のための資料は、大きく次の4つに分けられる。

(1) 一般の資料をそのままでは利用できない人のために利用可能な形態に変換した資料

(録音図書、録音雑誌、DAISY 図書、マルチメディア DAISY 図書、字幕付き・手話付きビデオ・DVD、点字図書、拡大写本、さわる絵本、テキストデータなど)

(2) 一般の資料に手を加えることによって読めるようにした資料

(字幕や手話を付けたビデオ・DVD、点訳絵本、原本の漢字にフリガナを付れたり、拡大コピーによる拡大資料)

(3) 資料利用に障害のある人を主な対象とした資料。

(大活字本、布の絵本・さわる絵本、点字雑誌の『点字毎日』『テルミ』など、知的障害の人のための読みやすい図書など)

(4) 一般の資料の中で資料利用に障害のある人にも利用できるもの

(漫画、CD等の音声資料、児童図書や紙芝居など様々)

B, このうち(1)のように元の資料を様々な形に変換して提供するものについては、以下のよう基本的な考え方が必要である。

(1) 著作物の同一性保持権の尊重

音訳、点訳、拡大、字幕・手話等々、限りなく原本に近い変換が求められる。

(2) しかし同時に資料利用に障害のある利用者が理解できるかどうかを検証する必要がある。

同音異義語の点検、リライトの必要性、触図は理解可能か?等々

(3) 当然ではあるが、正しい情報を提供する

誤った情報によって命に関わることもあり得る。変換して提供することに責任を持つ。

校正の重要性。

C, その上で、資料変換に関する基本はプライベートなものであるというのが原点である。例えば同じ資料を音声化した2種類の録音図書は決して同一・等価のものにはならない。そこで次の二つのことが重要になる。

(1) 利用者の要望に沿った変換ができるように、多様な処理方法を確立する必要がある。

(2) 変換資料は二次的な資料であって、原本とは決して等価にはならない。従って原本に立ち返ってアプローチできる手がかりをできるだけ変換資料に盛りこむ必要がある。

また、そのためには変換資料と現資料をセットで一緒に保存する必要がある。

2, 様々な障害者用資料

A、布の絵本

「絵本+遊具・教具」「聴覚・視覚・手足の運動・情緒など様々な障害をもつ子どものため」「手指の機能訓練による知能の発達を促す。」「集中力を刺激し、観察力を養い」「手や指の作動感覚や応用力を発達させ、道具の使用を身につけさせる。」「スポーツによる怪我や交通事故、病気(脳出血)などで、身体の機能を麻痺したり、言語を失った人たちの機能の回復にも幅広く役立つようになってきた。」という。また女刑囚や少年院の子どもたちが涙をこぼし穏やかな表情になったという報告もある。(『布の絵本からのメッセージ』東京布の絵本連絡会 1996年)

B、さわる資料(触読資料)

(i)点字資料

一般の点字はカナ文字(表音文字)であるが、この他に漢字を表す点字として6点漢字と漢点字がある。6点漢字は漢字の音と訓の組み合わせを利用した点字の漢字で、漢点字は1マス8点の組み合わせによって構成され、漢字の偏や旁を利用して漢字を表している。しかし点字の漢字は盲学校などでも正式に教えられることがなく、ほとんど普及していない。またその他に楽譜を表す点字楽譜や点字数学・理科記号、英語点字等も普及しており、それらで表現されたものを総称して点字資料という。

①点字図書

②点字雑誌(2007年版「点字雑誌一覧」で153種

(全国視覚障害者情報提供施設協会調査 <http://www.naiiv.net/about/>)

週刊『点字毎日』、月刊『あけのほし』、隔月刊『テルミ』等々

③点訳絵本

(ii)さわる絵本

①さわる絵本(手製)

「視覚障害児のための触る絵本の作製と活用および普及についての研究」(国立特殊教育総合研究所視覚障害教育研究部 金子健)では、さわる絵本が「絵本として楽しめること以外にも、触察の仕方の向上や点字学習の促進、触覚的なイメージの豊富化および想像力の伸長などにも役立つことが分かった。」としている。

②さわる絵本・さわる図鑑(市販)

市販のさわる絵本・さわる図鑑は、樹脂による隆起印刷によるものが大半

1979年偕成社から刊行された翻訳絵本『これ、なあに?』(バージニア・A・イエンセン、ドーカス・W・ハラ一作、くまがいくえ訳、新装版ではきくしまいくえ訳)、1981年『ちびまるのぼうけん』(フィリップ・ヌート作・絵、山内清子訳、偕成社、1981)は、本文の点字が同じ隆起印刷で印刷されている。

日本では日本野鳥の会製作『さわる図鑑・鳥 ①庭や公園の野鳥』(谷口高司絵 1991)と『さわる図鑑・鳥 ②森や林の野鳥』(谷口高司絵 1992)の2冊が早い時期のもの、大きな太い文字の文章とその点字が印刷され、鳥の絵にも輪郭を表す透明な樹脂が印刷され鳥のおおよその形が触って分かるようになっている。この本にはさらに鳥の鳴き声の入ったカセットテープが付いている。

その後『さわってごらんだれのかお』(なかつかゆみこ著 岩崎書店 1999)などのバリアフリー絵本3冊や『チョコキチョコキョッキン』(ひぐちみちこ・いわたみつこ作、てんやく絵本ふれあい文庫発行、こぐま社発売 1996)、『赤塚不二夫のさわる絵本』(赤塚不二夫著、小学館 2000)等のさわる絵本が出版されている。ユニバーサルデザイン絵本センターでは『てんてん』(中塚裕美子作 ユニバーサルデザイン絵本センター 2002)をはじめとして、現在までに14冊のUD絵本を出版している。

③サーモフォーム図書

『指で読む世界地図』全3巻 日本点字図書館

④発砲インクによる資料

『調布市ハザードマップ』、『東京ディズニー・シーの地図』

映像:スウェーデンのさわる絵本『Miffiy』の工夫

C、拡大資料

(i)大活字本

どらねこ工房の弱視者用大活字本『星の王子さま』(サン＝テグジュペリ作 内藤濯訳、原本岩波書店 1978年) 24 級(16 ポイント)太明朝体の横書きで字と字の間隔をたっぷり取って印刷

『大きな字の本 てぶくろをかいに』(新美南吉著 紙魚書房 発売論創社 1979年)弱視の子どもの母親によって作られた本、太明朝体 30 ポイント

京都点友会「弱視児用日本地図」

(ii)拡大写本

拡大写本とは、当初は、一般の図書資料などを手書きで大きく書き直したものを指していたが、最近ではパソコンやワープロを使って作成したものが増え、手作りの拡大資料を総称して拡大写本と呼んでいる。

墨田区で作成した拡大教科書

2008年に教科書バリアフリー法(障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律)が成立し、それに伴い著作権法も第33条の2が次のように一部改正された。

「教科用図書に掲載された著作物は、視覚障害、発達障害その他の障害により教科用図書に掲載された著作物を使用することが困難な児童又は生徒の学習の用に供するため、当該教科書に用いられている文字、図形籐の拡大その他当該児童又は生徒が当該著作物を利用するために必要な方式により複製することができる。」(ただし出版社等への通知が必要。さらに営利目的の場合には補償金を支払うことになる)

このことによって、拡大教科書だけではなく、教科書のDAISY化やマルチメディアDAISY化も可能に。

D、音声資料

録音図書、DAISY録音図書

(i)録音図書

(ii)DAISY録音図書

DAISYは1枚のCDに53時間(音質を少し上げると26時間)録音出来るので多くの図書資料はその音源を1枚に納めることができる。章や節の頭出し、指定したページへの移動が即座にでき、指定した箇所にしおりを8箇所まで付けることができる。また読むスピードも30%ずつ遅くも早くもでき最高300%までの早聴きが同じ音程でできる。DAISY録音図書は世界標準となったために欧米で作成されたDAISY録音図書をそのまま聞くことができる。

(iii)マルチメディアDAISY図書

マルチメディアDAISY図書は、音声にテキストおよび画像をシンクロ(同期)させ、ユーザーは音声を聞きながらハイライトされたテキストを読み、同じ画面で絵を見ることができる。また同時に点字での出力も可能である。マルチメディア・DAISYの利用対象者は視覚障害者に限らず、普通の印刷文字を読めない障害(print disability)のすべての人に貢献することができる。学習障害者(LD)やその中のディスレクシア(読み書き障害)などの読むことに障害のある人が既に利用をはじめている。

養護学校の教諭である藤澤和子さんのマルチメディア・DAISYを使ったレポート

「私が担当させていただいた「はなさかじい」「ねずみのよめいり」の区切り長めバージョンは、文字に興味をもちつつある、文字に興味をもっているが十分読めない知的障害の子どもが、絵を見てお話を聞きながら、文字への関心や句や文のまとまりや、読む能力を育てるために、編集したもので、一般の子ども

たちへの読み聞かせを目的とすると、区切りが多くゆっくりペースすぎるかもしれません。いろいろな障害の人やふつうの子どもたちすべてに適した DAISY を今すぐ作るのは、現実的には難しいと感じています。その中で、知的障害が軽くはない人たちが、おいておかれる可能性が大きいのではないかなあ……。

そういう意味で、今回のサンプル長め区切りバージョンは、学習用的ではありますが、1つの試みとして意味があるのではないかと、また、そうであってほしいと願っています。

2日前に、モニターの1人の子どもが、なんと、この DAISY2冊を、文字の表示だけで読めるようになったのです！ 私が特訓したわけでもなく、ほんとうに自発的に読むことを楽しんでいました。文字と音声と絵が重なり合う3つの DAISY の魅力が、無理なく、読書の楽しみと読みの力を与えたのではないかと感じています。」

「最近、井澤さんは家庭での学習用に視覚障害者用ソフト『DAISY』を使って歴史の教科書をCD-ROM化した。『DAISY』はパソコンの画面上に、教科書が1ページずつ現れ、内蔵マイクからは教科書を朗読する声が聞こえ、読んでいるところの文章が学習者にとってわかりやすいように、段落ごとに黄色く反転する画期的なソフトだ。このソフトを井澤さんは、息子が使いやすいように微調整して作ってもらった。反転の色を変える、段落ごとではなくて1文ごとに反転させる、反転した場所が画面の中央部に現れるようにしてもらおう……。このソフトのおかげで、拓也君の読解力と理解は大幅に進み、本人が自分でも驚くくらい勉強が分かりやすくなったそうだ。」(『怠けてなんかない！ ディスレクシアー読む・書く・記憶するのが困難なLDの子どもたち』品川裕香 岩崎書店 2003)

(iv) 国語のデジタル教科書

平成17年度から使用される光村図書発行「国語」新版教科書には、マルチメディアデイジーと非常に共通性のあるデジタル版が作成された。これは教授用ソフトということなので、スクリーンなどにプロジェクターで映して授業するためのもののだが、学習障害などの子どもには福音となるだろう。今年度から算数や社会など他の科目のデジタル教科書も作成されるという。

講演会「読みの困難な児童・生徒に向けた DAISY による支援」(2010年1月9日)での

山中香奈『兵庫県 LD 親の会「たつの子」での事例』より

・学習障害 小1 男児(使用歴10ヶ月)

お勉強重視の幼稚園に通っていたことから就学前から読めないかけないことを体験し、字を見ることもいやがっていた。幼稚園での学年が進むとどんどん自信を喪失していく姿が感じられた。小学校入学時よりデイジーを使用し始め、音読の宿題のみに使用している。デイジーの声の後からついて読むが、耳から聞こえる声のまねをしているように見受けられる。デイジーでの学習いた箇所は文章のあらすじなどが理解でき、授業でも自分から進んで発表もしているようだ。最近はずを見ることを嫌がらなくなった。遅いながらも板書ができたり、明日の連絡ノートが書けたりしている。(2009.12)

・自閉症小1 女児

母が本読みに付き合えない時などに利用している。(自営なのでよく仕事場で利用している)娘は、単語発音が多いためか、ハイライトが長い時があるようだ。区切りを単語に近い感じにしたり、小節にしたり娘の状況に応じて変化させることが出来れば嬉しく思う。2009.01

標準語を使う先生の指示に従えなかったがデイジーをよく聞くようになってから出来るようになった。テレビを見なかったのが見る事が出来るようになった。今まで母親の強い方言の言葉だけを理解していたようだ。デイジーで娘の成長が大きく変わったことを実感している。

2009.10

・広汎性発達障害 ADHD 傾向の小1 男児

元々本は好きであったが、何よりも DAISY をとおして声を出して読む楽しさを知ったようで、音読が大好きになった。宿題の中でも一番に音読に取り組むようになった。ハイライトが入るこ

とで、集中力が増し、読み飛ばしが少なくなった。視覚と音声で入ってくるので、集中して聞くようになり、内容の把握もすすみ、内容の質問に対する回答もスムーズになった。読みがスムーズになり、抑揚をつけてはっきりとした声で読めるようになった。読むことに自信を感じているようだ。読み間違えた箇所を再度音声で確認することで、次からの読み間違いが少なくなった。文章をあっという間に覚えてしまうようになった。(2009.01)

・アスペルガー障害・LD 小5 男児

本読みの宿題が出た日だけの使用で週3日程度。今までは、テストで文章を読まずに頓珍漢な答えを書いたり、設問に手を付けず空白のままだった。少しずつ変化が現れたのが2,3ヶ月前。殆んど空白のないテストを持って帰ることが多くなり、文章を読んで答えているのがよく分かるようになった。ここ1ヶ月は(算数、国語、社会)のテストで80点以上取ってくる回数がふえた。デイジーを使用することが、文章の内容理解をする手助けになったのは間違いないと感じてる。最近、自信が持てるようになったのか、宿題もあまり嫌がらずするようになり、学校の授業も以前より集中して聞いているようだ。本人談「段落の番号が出ると嬉しい」(2009.01)

・自閉症小4 男児

デイジーに出会いまた教科書を暗唱することが増えた。授業中に劣等感を感じる事がなくなったようだ。今まで間違えて覚えていた言葉がデイジーのルビと音声で自分で間違いに気が付くことができるようになった。初めて読む文もデイジーでしたら、なんとか読めているので効果はあると実感している。

・ディスレクシア LD 小5 男児

教科書をパソコンの前において画面と本を交互に見ている。最後まで集中してみているが読むスピードがもう少し遅いほうが良いといっている。フォントは大きい方が分かりやすかった。

・「LLブック・マルチメディアDAISY資料リスト」 <http://homepage2.nifty.com/at-htri/ll-book.htm>

(v)録音雑誌

2007年度「録音雑誌一覧」によると622種

(全国視覚障害者情報提供施設協会調査 <http://www.naiiv.net/about/>)

E、手話付きの絵本

1990年にオーストラリアで出版された『音のない川』(サラ・バーテルス作、キャサリン・ヒューイット絵、松井たかえ訳、全日本ろうあ連盟日本手話研究所手話構成、佐野芳朗手話イラスト、ブックローン出版1994)

『みそ豆—林家とんでん平の点訳シート付き手話落語絵本』(林家とんでん平監修・著、宮川隆志絵、吉川紀子・青木こずえ点訳 お茶の水自分流文庫 1998年)

『初天神初天神—(林家とんでん平監修・著、宍戸孝一絵 お茶の水自分流文庫 1999年)

F、字幕付き手話付きビデオ・DVD

社会福祉法人聴覚障害者情報文化センターでは聴覚障害者向け映像ライブラリー事業を行っており2009年1月現在、ビデオ3201タイトル、DVD126タイトルの作品が貸出用として所蔵

これらのビデオやDVDには聴覚障害者向けの字幕や手話などが付いており、全国にある38の聴覚障害者情報提供施設や聴覚障害者団体、一部の公立図書館などでも借りることができる。作品の多くはNHKその他のテレビ局で放映されたテレビ番組、映画などに字幕を付けたもの

手話かみしばいといって「国内外の有名な昔話・教訓のある昔話を題材に、ろうの親がろうの子供に話し聞かせるように、ろう者が語り手となることにより、ろう者の手話の奥深い表現力等伝えると共に、手話学

習者の教材等に利用されることを目的としている、字幕付き手話ビデオも制作されている。

またCD-ROM版の『手話ごんぎつね』(株エヌ・アイ・ケイ、熊本県聴覚障害者情報提供センター制作・販売 2007)手話と日本語の単語・文と音声をクリックさせたもの、音声による文章の読み上げと一緒に手話の動画を再生できる

G、やさしく読める本(LL)

LL(やさしく読める図書)は、一般の書籍や新聞などを正確に読むことが困難な人を対象に、やさしく読めるテキストを提供するもの。主な対象は知的障害者や自閉症、学習障害、認知障害者など読むことに障害のある人たち、そして移民して間もない人や教育を十分に受けられなかったために書かれていることへの理解力や読解力が乏しい人。

スウェーデンでは1960年代からやさしく読める図書に関する機関ができ、研究が始められ、1991年にはやさしく読める図書を専門に出版する出版社が発足。年間に30冊の「やさしく読める本」が国家の補助を得て出版されており、現在までに800タイトル以上の本が作られた。

LLという名称を冠して日本で出版された本は、スウェーデンで刊行されたLLの翻訳本『山頂にむかって』(スティーナ・アンデション文 エバ・ベーンリード写真 藤沢和子監修 寺尾三郎訳 愛育社 2002)と『リーサのたのしい一日ー乗りものサービスのバスがくる』(マーツ・フォーシュ文 エリア・レンピネン写真 藤沢和子監修 寺尾三郎訳 愛育社 2002)が初めてのもので、いずれの本も知的障害者を主人公としている。

その後、刊行されたヤングアダルト向けのラブストーリー『赤いハイヒールーある愛のものがたり』(ロッタ・ソールセン文 ビヨン・アーベリング写真 中村冬美訳 日本障害者リハビリテーション協会 2005)は、テキストと映像と音声を同梱したマルチメディアデイジー版が付く

2006年に『ひろみとまゆこの2人だけのがいしゅつーバスにのってまちまで』(内田由美おはなし 西矢育子絵 大阪府立金剛コロニー監修 清風堂書店)は、日本初のLLブック

『LLブックを届けるーやさしく読める本を知的障害・自閉症のある読者へ』(藤澤和子、服部敦司編著 読書工房 2009)には巻末に「LLブック・マルチメディア DAISY 図書リスト」が掲載されている。

H、リライト

著作権法第43条の視覚関係では「翻訳、変形又は翻案」が可能になり、音声化だけでなく、文字の拡大、テキストデータ化、さわる絵本の作成や知的障害者や日本語を母語としない人のためにやさしく書き直すリライトなども出来るようになった。

リライトはまだほとんど手が付けられていない障害者サービス用資料の一つだが、横浜市立盲特別支援学校では、課題図書を弱視で知的障害の生徒用に大幅に文字数を減らしたやさしく読める拡大写本を製作している。

3、墨田区における資料の利用

- (1) 高齢者施設での拡大写本の利用
- (2) 知的障害者とマルチメディア DAISY 資料
- (3) 知的障害授産施設における資料利用